

# 行政視察等報告書

令和5年6月20日

長野市議会議長 寺 沢 さゆり 様

報告者氏名（代表）  
経済文教委員会委員長 金沢 敦志

この度、行政視察をしましたので、その概要について下記のとおり報告いたします。

## 記

- 1 視察区分 経済文教委員会行政視察
- 2 視察者氏名 金沢 敦志、桜井 篤、市川 和彦、塩入 学、西脇 かおる  
竹内 茂、近藤 満里、小泉 栄正
- 3 随行者 書記 前島 諒人
- 4 視察期間 令和5年5月15日（月） ～ 令和5年5月17日（水）
- 5 視察先及び視察事項

視 察 先	視 察 日 時	視 察 事 項
前 橋 市	5月15日（月） 午後1時～	まえばし暮らしテック推進事業について
東 京 都	5月16日（火） 午後1時30分～	アクアティクスセンターについて
子 ども 夢 パ ー ク	5月17日（水） 午前10時～	子ども夢パークについて

6 調査概要

月 日	視 察 先	考 察
5月15日	前橋市	<p>○ まえばし暮らしテック推進事業について</p> <p><b>【概要】</b></p> <p>国の「デジタル田園都市構想推進交付金（TYPE3）」に採択され、令和5年4月から事業がスタートした。</p> <p>一人一人が Well-Being（幸せ）でいられるまち、市民によって育まれる共助型未来都市を目指し、技術が人に寄り添い、誰一人取り残されることなく、新たな価値を芽吹かせ続けるまちを実現するための様々な取り組みを行っている。</p> <p>事業の構築体制は、2社からなる全体業務設計・進捗管理（PMO）事業者の下にデータ連携基盤事業者3社、基盤系サービス事業者3社、先端的サービス事業者6社、その他サービス事業者3社からなる共同事業体（コンソーシアム）を組んで、それぞれの得意分野での技術をつないで、市民をはじめとする利用者に様々なサービスを提供するというもの。</p> <p>総予算は7.5億円で、2/3がデジ田交付金で残り1/3はコロナ交付金を充て、市費での負担はない。</p> <p>支出は、PMOへ8,000万円、サービス構築に6.7億円</p> <p><b>【先端的サービス】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コミュニティ共助学育</li> <li>2. アレルギー情報の多角連携による寄り添うサービス</li> <li>3. オールインワン母子手帳とデジタルソーシャルワーカーによる子育てサポート</li> <li>4. シミュレーション運転データ活用による危険運転度合いの測定</li> <li>5. デジタル共助ポイントによる文化・芸術・地域活性化</li> <li>6. 緑化・生態系の可視化による環境意識の醸成</li> <li>7. 電力データ活用イェナカ情報による地域見守り</li> </ol> <p><b>【基盤系・その他サービス】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. デジタル共助ポイント</li> <li>2. パーソナライズ化されたスマホ版まえばしダッシュボード</li> <li>3. 対面遠隔デジタル窓口</li> <li>4. データ連携基盤</li> <li>5. めぶく ID</li> <li>6. サイバーリスク評価</li> <li>7. 5G 基地局の設定</li> </ol>

5月16日	東京都	<p><b>[考察]</b></p> <p>サービスを利用するためには、マイナンバーカードの署名用電子証明書により本人確認を行い「めぶくID」と呼ばれるIDを取得する必要があるなど、ID発効までに一定のプロセスが必要である。事業開始間もない事もあつてか、令和5年4月末現示のID取得者は1350人ほど。</p> <p>今後、体験会を開催するなどして、高齢者を中心にスマートフォンの操作支援も必要と思われる。</p> <p>また、提供されるサービスは、それぞれの技術開発を担当した事業者の思いで構築されているためカタカナ名が多く、利用者側からすると分かりにくいものとなっている。</p> <p>多額な費用をかけて構築されているので、より多くの利用者に活用していただく事が望まれる。専門性の高い分野において、管理運営をどのようにするか、また、利用者拡大に向けてどのように取り組むべきか、難しい課題である事を改めて感じた。</p> <p>ちなみに、前橋市のマイナンバーカードの申請率は84%ほどで、交付率は70%以上とのこと。</p> <p><b>○ アクアティクスセンターについて</b></p> <p><b>[概要]</b></p> <p>東京アクアティクスセンターは、東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、東京都江東区辰巳の森海浜公園に東京都が新たに整備した施設の一つで、国際基準の50メートルプールが2つとダイビングプール、国内最大級の観客席（東京2020開催時は約15,000席、大会後は約5,000席）を備える公認水泳施設。</p> <p>東京2020大会では、水泳競技（オリンピックでは競泳、飛込、アーティスティックスイミング、パラリンピックでは水泳）の会場となった。</p> <p>東京2020大会後は、多すぎる観客席の撤去工事を行い、後利用として水泳競技の国際・国内大会の開催やアスリートの強化育成の場及びスポーツを愛好する人がスポーツや健康増進に取り組むことができる水泳場を目指している。</p> <p>敷地面積：36,399㎡  建物延面積：64,404㎡  階数：地下1階、地上4階  観客席：約5,000席（東京2020大会後）  竣工：2020年2月  所在地：東京都江東区辰巳2-2-1  所有者：東京都  施工者：大林・東光・エルゴ・東熱異業種特定建設共同企業体  建設費：567億円（うち国費は1.6億円で、その他は都債）  運営費：支出約8億円、収入約3億円、差額の5億円は都負担  運営者：公益財団法人東京都スポーツ文化事業団（プールの貸出し）、株式会社オーエンス（機械、警備）、セントラルスポーツ株式会社（個人利用、水泳教室）、公益財団法人東京都水泳協会（大会運営）がコンソーシアムを組んで指定管理者として管理運営を行っている。</p> <p>●メインプール  規格：50m×25m 10レーン（短水路25m 20レーン 可動壁）  水深：0～3.0m（可動床）  観客席：約5,000席  競技：競泳、アーティスティックスイミング、水球等</p> <p>●ダイビングプール</p>
-------	-----	---

<p>5月17日</p>	<p>子ども夢パーク</p>	<p>規 格：25m×25m          水 深：5.0m          飛込台：1m、3m、5m、7.5m、10m（各1基）          飛 板：1m飛板4基、3m飛板3基          競 技：飛込等                      *観客席はメインプールと共用</p> <p>●サブプール          規 格：50m×25m 10レーン（短水路25m 20レーン 可動壁）          水 深：0～3.0m（可動床）          競 技：競泳</p> <p>[考察]          まずは、ほとんど国の補助を受けずに都の財政だけで造って運営していることに、東京都の財政力の強さを感じた。          後利用として年間100大会やプールを活用した各種イベントを開催し、年間利用者目標が100万人とのことだが、やはり東京都の人口の多さが大きく影響していて、有効活用が図られていると感じた。          ただし、運営費に東京都から年間5億円投じられているということで、東京都だからできているが、長野市のような財政力のない地方都市では、とても真似ができないことである。          大会開催時の施設予約は、大規模大会→中規模大会→小規模大会→グループ利用の順に予約できる期間が短くなっていくとすることで、効率的な施設利用が図られている。          施設の利用料は、一般利用は2時間で473,200円、1日 2,554,500円、アマチュアスポーツはプールのみでの使用は2時間で59,100円、1日319,100円。          東京2020開催時はアクセシビリティに配慮し、トイレ機能の分散配置、共用トイレや男女別トイレ、車椅子席や同伴席、再生可能エネルギーとして太陽熱のコージェネレーション地中熱利用のヒートポンプ、リユース材の活用などが工夫されている。</p> <p>○ 川崎市子ども夢パークについて          [概要]          子ども夢パークを造る前は工場跡地で、当初は公園を作る予定だったが、どんな施設がほしいか、どんな施設は迷惑かなど、当事者の声を聞くために市民アンケートを行い、子ども103件、保護者82件の意見があった。          いつでも、誰でも学べる学校教育以外での学習権の保障ができ、学校教育にこだわらない生活からの学びができる、学校に行けないで苦しんでいる子どもが学校教育の縛りから解放される場として整備した。          「川崎市子どもの権利に関する条例（2000年12月制定、2001年4月施行）」は、「子どもの権利条例検討連絡会議」及び「子ども権利条例調査研究委員会」が市民、子どもたちと2年間で約200回もの意見交換を行って策定されたもので、それを実現する施設として2003年7月にオープンした。          その後、2006年4月1日から指定管理者制度が導入され、「川崎市子ども夢パーク共同運営事業体（公益財団法人川崎市生涯学習財団と特定非営利活動法人フリースペースたまりば）」が受託して管理運営を行っている。          所在地は、川崎市高津区下作延 5-30-1</p>
--------------	----------------	--

開所時間は、午前9時から午後9時まで  
休所日は、施設点検日の毎月第3火曜日及び年末年始  
敷地面積は、9,871.76 m<sup>2</sup>  
建物面積は、1,827.57 m<sup>2</sup>

### 1 川崎市子ども夢パークの基本理念

子どもの自由な発想で遊び、学び、つくり続ける居場所

- ① 「川崎市子どもの権利に関する条例」を実現する居場所
- ② 使いながらつくり続けていく場
- ③ 子どもの自由な遊び、活動がどんどん膨らむ場
- ④ 子どもが自由に安心して居られる場
- ⑤ 学校以外での育ち、学ぶ場
- ⑥ 川崎市の子どものネットワークの拠点となる場
- ⑦ 子どもたちが自分たちで動かしていく場

### 2 川崎市子ども夢パークの施設・運営の概要

#### (1) 施設の特徴

循環システム型で整備していく夢パークでは、「遊ぶ」を「考える」⇔「つくる」⇔「こわす」⇔「考える」の繰り返しと考えており、施設も子どもたちが安全に使用できる基本的なものだけが整備されており、その後、子どもたちが施設を使いながら自分たちで創っていくことができる。このため、「スケルトン建築様式」の採用で、将来的に子どもたちが自分たちで増築・改装する等の多様性や可変性も確保している。

#### (2) 運営方針

- ① 子ども主体の運営を目指す（子ども自身による自主的運営）  
「川崎市子ども夢パーク条例」第4条…事業の推進に当たっては、子どもの意見を尊重するとともに、その参画を図るように努めなければならない。
- ② 子どもたちが「自分の責任で自由に活動できる」運営
- ③ いろいろな人の輪を広げて、活動の可能性を広げていく
- ④ みんなで工夫し、変えていけるやわらかい運営をめざす

#### (3) 子ども夢パークの特色

- ① 自分の責任で自由に遊び、ありのままの自分でいられる。
- ② 屋外には、たき火や水遊びなどができるプレーパーク（冒険遊び場）や広場、サイクリングロードなどがある。
- ③ 屋内には、照明付きの全天候広場、バンド等の練習ができるスタジオ、ゆっくりと過ごすことができる交流スペースなどがある。
- ④ 生涯学習の視点に基づき、「フリースペースえん」をちゅうしんとした学校外の多様な育ちと学びを保障している。
- ⑤ 子ども参加の拠点として、「川崎市子ども会議事務局」があり、日常的に活動を行っている。

### 3 職員体制

所長1名、副所長1名のもと、プレーパークスタッフ7名、フリースペーススタッフ7名（副所長1名含む）、事務スタッフ3名（副所長1名含む）の計18名の職員体制で運営している。

勤務は週4日（月約17日間）、早番（準早番含む）と遅番の2シフト、アルバイト若干名やボランティアがサポートしている。

**[考察]**

施設の中には大勢の子どもがいて、それぞれがやりたいことを自由に楽しそうにやっていて、のびのびとした開放感を感じた。

施設外から遊びに来ている幼稚園や保育園の子どもたちも、絵を描いたりお弁当を食べたりゲームをしたりしながら、楽しそうに過ごしていた。

この施設のキーワードは「居場所」で、この施設を訪れるすべての人が自分の「居場所」を求めてやってくる。

人間は自分の「居場所」があれば安心できるが、「居場所」がないと、どこへも行けずに引きこもりになってしまう。

子どもを権利の主体である一人の人間として尊重し、子どもと大人は社会のパートナーと位置付け、子どもの居場所づくりが大切。

夢パークでの1日の過ごし方はすべて自分で決める。毎日のお昼ご飯は献立から始まってすべて自分たちで作ってみんなで食べる。孤食から共食でつながりを取り戻していく。自分は一人じゃないんだと。

自分は駄目だと思っていた子がインクルーシブな生活の中で他人の役に立てることに気づく。直火を使って野外調理をしたり、楽しいことの積み重ねで元気になる。

子どもが自信を失う原因の一つは親の不安であって、親はその不安を取り除くために先回りして子どもの失敗を回避させる。

勉強ができる子、スポーツができる子、友達が多い子がいい子で、子どもの評価を上げることで親の評価を上げようとする。

リスク回避のために早くから習い事をさせたり塾に通わせたり、かけっこや逆上がりの家庭教師をつけたり。すべて「正しい親」に見られたい。「完璧」「正しさ」を求めすぎる家庭が多すぎる。

その子の「今だ」はきっと来る。子どもを信じて子どもの命に寄り添うことが大切。大人が元気（幸せ）じゃないと子どもは元気（幸せ）になれない。

詳しくは記載しないが、子どもが不登校になる原因や、それにどうやって接したらいいのか、対応する方法などについて具体的に分かりやすく学ばせていただいた。今後の長野市の不登校の子どもたちへの対応に活かしていければいいなと感じた。